

## 日本の「余白」



### 「浮世絵逆輸入」

日本人が無関心だった時期に、外国人は日本美術の価値を高く評価し、収集した。外国に持ち出し、博物館や美術館で大切に保存してくれたお陰で、今見ることができる。それが、日本に逆輸入されて、浮世絵に対する評価が高まった。

### 「古池や蛙飛びこむ水のおと」

完璧な翻訳はあり得ない。特に短歌や俳句は外国語に訳すのが難しい。松尾芭蕉の「古池や蛙飛びこむ水のおと」も。かわずを単数形にするか複数形にするかで意味が違ってくる。様々な訳があるが、スタンダードはない。それぞれの国で理解の仕方が異なっている。

### 「日本独自の余白」

「余白の美」について、日本人は何もないところに感情を与えるのが上手。茶席で、上にわずかに薄紅が施された薯蕷饅頭が出てきて、菓銘が吉野山と聞かされただけで、日本人は奈良の吉野山の桜がイメージできる。外国人に桜をイメージさせるには、菓子や桜の花びらの形にするか、桜の塩漬けを上に乗せるし

かない。それは日本人にとって野暮になる。あえて桜の形や味にしなことで、人それぞれのイメージを浮かび上がらせることに日本人は重きを置く。

余白はゼロではない。余白をして何かを語らしめるのが日本的な手法。ただ、欧米にも似たような効果をもつものもある。それを互いに理解し合うのが大切だ。

奈良県立万葉文化館 15 周年フォーラム 三笠宮彬子さまと  
中西進名誉館長の対談より 一部抜粋  
<朝日新聞 平成 28 年 11 月 12 日>

